

お詫びと訂正

『新版 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト（初版）』につきまして、介護職員等による喀痰吸引等の研修テキストの見直し等に関する調査研究事業報告書の『令和3年版 介護職員等による喀痰吸引等の研修テキスト』において発出された正誤表を参考に、以下のように本文の記載を訂正させていただきます（2023年7月19日更新）。

●2022年3月24日更新分

該当頁	該当箇所	誤	正
6頁	「第2章 保健医療制度とチーム医療」の「2. 医療的行為に係る法律」の小項目中	<u>③原則として医行為ではない行為</u>	<u>③医行為ではないと考えられる行為</u>
29頁	表I-1-5 「②安全適正に関する基準」中	<u>・実地研修を修了していない介護福祉士に対し、医師・看護師等を講師とする実地研修の実施</u>	削除
190頁	表II-2-5 【注意点】※2中	<u>【非侵襲的】人工呼吸療法（気管切開）</u>	<u>【侵襲的】人工呼吸療法（気管切開）</u>
208・216・227頁	STEP4 実施 「プロセス6）」の「実施者」中	(空欄)	<u>看護職員</u> <u>介護職員</u>
226・258頁	STEP4 実施 「プロセス4）」の「留意事項」中	吸引チューブの根元を <u>完全には折らず、少し圧をかけた</u> 状態で、所定の位置まで静かに挿入する。	吸引チューブの根元を <u>折らず、圧をかけた</u> 状態で、所定の位置まで静かに挿入する。
226・259頁	STEP4 実施 「プロセス4）」の「考えられる主なリスク」中	<u>除脈</u>	<u>徐脈</u>
231頁	STEP1 安全管理体制確保「プロセス1）」の「留意事項」中	人工呼吸器	<u>非侵襲的な</u> 人工呼吸器
258頁	STEP4 実施 「プロセス4）」の「留意事項」中	10～ <u>20</u> 秒以内	10～ <u>15</u> 秒以内
258頁	STEP4 実施 「プロセス4）」の「考えられる主なリスク」中	<u>・吸引チューブが誤って深く挿入された場合の気道粘膜が刺激される</u>	削除
260頁	STEP4 実施 「プロセス6）～8）」の「実施者」中	(空欄)	<u>看護職員</u> <u>介護職員</u>
338頁	STEP3 準備 「プロセス2）」の「考えられる主なリスク」中	<u>・必要物品の間違い</u>	削除

338 頁	STEP3 準備 「プロセス3)」の「考えられる 主なリスク」中	・ <u>栄養剤（流動食）の取り扱い間違い</u>	・ <u>必要物品の間違い</u>
338 頁	STEP3 準備 「プロセス4)」の「考えられる 主なリスク」中	(空欄)	・ <u>栄養剤（流動食）の取り扱い間違い</u>
339・ 347 頁	STEP4 実施 「プロセス2)」の「留意事項」 中	<u>接続部</u> より	<u>胃部</u> より
348 頁	STEP4 実施 「プロセス4)」の「留意事項」 中	<u>内宮</u>	<u>内腔</u>
349 頁	STEP4 実施 「プロセス7)」の「内容」及び 「留意事項」中	<u>胃ろう・腸ろう</u> 栄養チューブ	<u>経鼻経管</u> 栄養チューブ
355 頁	STEP3 準備「プロセス3)」の 「内容」中	栄養剤 (<u>流動食</u>)	栄養剤 (<u>半固形栄養剤</u>)
356 頁	STEP4 実施 「プロセス3)」の「留意事項」 中	<u>内宮</u>	<u>内腔</u>

340 頁のSTEP4 実施の「プロセス5)」中の「留意事項」にある「(観察内容)」を、341 頁の「プロセス6)」中の「留意事項」に移す。

357 頁のSTEP4 実施の「プロセス4)」の下に以下のものを追加する。

5)	注入中は利用者の表情や状態の変化を観察する。 (観察項目) ・挿入部からの漏れ ・気分不快 ・腹部膨満感 ・嘔気・嘔吐	看護職員 介護職員	異常を確認した場合は医師または看護職員に連絡し、対応方法を確認する。	・胃ろう・腸ろうの経管栄養の方法と手技 ・利用者の総合的観察技術 ・緊急、症状出現時の対応
----	--	--------------	------------------------------------	---

357 頁の「プロセス5)」を「プロセス6)」とし、「留意事項」中の一番上に、以下を追加する。

留置している胃ろう・腸ろう栄養チューブを抜去する危険があるため、十分に注意する。

357 頁の「プロセス6)」を「プロセス7)」にする。

●2023年1月11日追加分

該当頁	該当箇所	誤	正
44頁	表I-2-3中 下から8行目	専門的管理が必要 <u>ない</u> 場合を除く。	専門的管理が必要 <u>な</u> 場合を除く。
109頁	表I-4-7「消毒薬」の項目中	消毒用エタノール <u>(60%)</u>	消毒用エタノール <u>(70%)</u>
109頁	表I-4-7「使用濃度」の項目中	<u>0.01%</u>	<u>0.0125～0.02%</u>
109頁	表I-4-7「留意点」の項目中	<u>・強アルカリ性との作用による塩素ガスの発生</u>	<u>・強アルカリ性のため、酸性のものと混ぜると塩素ガスが発生</u>
109頁	上から3行目	塩素系 <u>洗剤</u>	塩素系 <u>漂白剤</u>
155頁	下から8～7行目	挿入します <u>(図II-1-9)</u> 。	挿入します。
163頁	下から8行目	<u>気管内</u> カニューレ内部	<u>気管</u> カニューレ内部
163頁	下から7行目	同じ吸引チューブで <u>気管内</u> カニューレ	同じ吸引チューブで <u>気管</u> カニューレ
185頁	図II-2-3中	<u>洗浄綿</u>	<u>清浄綿</u>
267頁	下から1行目	して胃へ達します。	して胃へ達します。 <u>口腔内にある歯は、食物を噛み砕く咀嚼をする役割をもっています。高齢者などでは、この機能が衰えて咀嚼能力が低くなり、食事内容をきざみ食にしたり、やわらかい食材にするなどの工夫が必要になります。</u>
310頁	表III-2-1中	加圧バッグやスクイーザーを利用して <u>ミキサー食を注入する方法</u>	加圧バッグやスクイーザーを利用して <u>注入する方法</u>
310頁	表III-2-1中	<u>ミキサー食</u> など	<u>市販の半固形栄養剤</u> など
310頁	表III-2-1中	<u>ミキサー食を入れる専用の容器</u>	<u>削除</u>
362頁・ 366頁	「16」中	<u>貯蓄物</u>	<u>貯留物</u>
363頁・ 367頁	「17」中	<u>貯蓄物</u>	<u>貯留物</u>

●2023年6月7日追加分

282頁の⑤～⑧を、④～⑦に繰り上げる。

●2023年7月19日追加分

該当頁	該当箇所	誤	正
109頁	上から2行目	酸素系 洗剤	酸性 洗剤